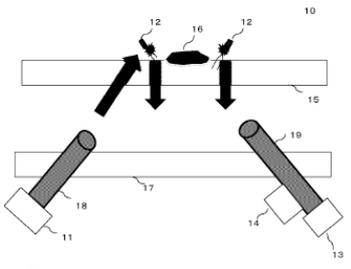
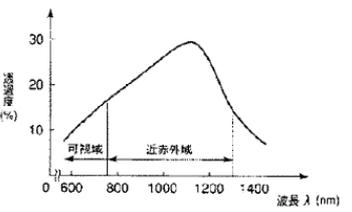
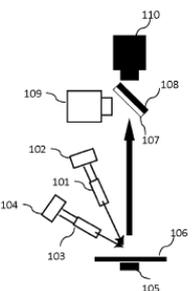


重点研究プロジェクト知財公開用情報提供【個表】

<p>発明の名称</p>	<p>検出対象部位の検出システム</p>
<p>登録（出願）日 登録（出願）番号</p>	<p>2012年2月13日 2012-028667</p>
<p>要約</p>	<p>本発明の検出対象部位の検出システムは、術前に内視鏡下にガラス蛍光体クリップを病変の周囲に固定することによって、腹腔鏡下手術をはじめとする消化管がん手術の際に、クリップの位置を検出することによって消化管の内側の病変部の位置を消化管の外側から正確に検出することを目的としたシステムである。</p>
<p>特徴／セールスポイント</p>	<p>本発明に係る検出対象部位の検出システムにより、消化管内の病変部の位置の迅速かつ正確な同定及び手術時間の短縮や切除部範囲の最小化が可能となる。 腹腔内を可視化するための撮像素子と、蛍光物質が発光する蛍光を撮像するための撮像素子を別々に設け、蛍光の撮像感度の優れた検出対象部位の検出システムを提供。</p>
<p>主な応用分野</p>	<p>病院などの医療機関や大学医学部などの研究機関、教育機関において、胃切除術中の消化管内病変部の同定のためのサポートシステムとして利用が可能である。</p>
<p>開発状況</p>	<p>ガラス蛍光体を内視鏡用クリップに装着し、胃の粘膜面に固定。漿膜面（胃の外側）より800nmの励起光を照射し、1000nmの蛍光を観察することができ、クリップ固定位置を明確に同定可能である。腹腔鏡用蛍光検出カメラと蛍光クリップからなるシステムを開発済みである。また開腹手術では、市販の蛍光検出装置を使用して蛍光クリップの位置を同定することも可能であり、蛍光クリップだけでも開腹手術における病変部位同定には有用であると考えている。</p>
<p>参考する写真等</p>	<p>【図1】</p>  <p>【図2】</p>  <p>【図3】</p> 

権利（出願）機関	愛知県、学校法人梅村学園、国立大学法人名古屋大学
問い合わせ先	<p>&lt;成果活用プラザ事務局&gt; P3 あいち産業科学技術総合センター企画連携部 &lt;主な権利（出願）機関担当者&gt; 機 関 名：愛知県がんセンター 部 署：運用部経営戦略室 担当者名：段家 貢司 電 話：052-762-6111（内線：2511）</p>